

CEFR-J レベル

A2.2

技能

Spoken Production

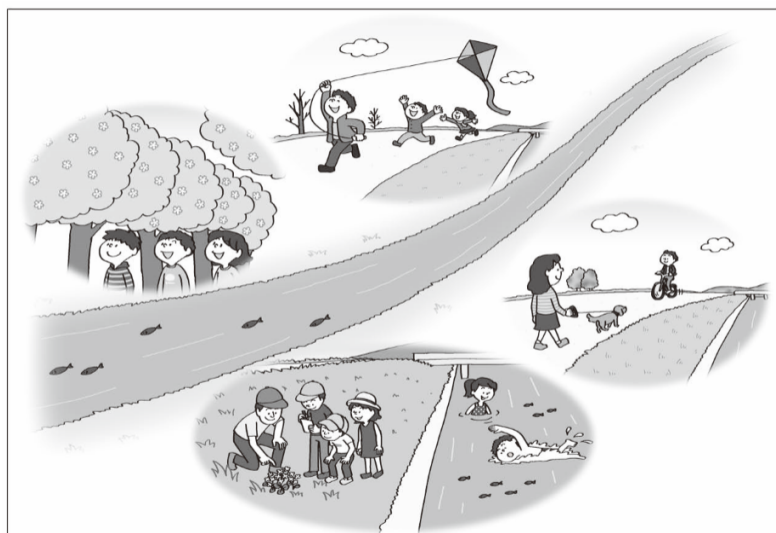
Can Do descriptor

写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。

テスト・タスク

あなたは、夏休みの海外語学研修で英語学校に通っています。ある日この学校で、各国の留学生たちが集まる交流会に参加しました。参加者はそれぞれ、自分が母国で住んでいる町について、短いスピーチをすることになりました。下記の絵は、町の様子がより伝わりやすくなるよう、あなたが描いたものです。これを聞き手に見せながら、1分間のスピーチをしてください。

準備時間は3分、話す時間は1分です。



解答例

I lived in a quiet town in the suburbs of Tokyo. It is rich in nature. There is a river with open fields on both sides. It is a popular recreation spot for people in the town. Some walk their dogs and others enjoy cycling. In spring, people go there for cherry blossom viewing. In summer, the town holds nature events for school children. When I was in elementary school, I joined one of them with my friends. We walked along the river with a volunteer guide, and she showed us plants, flowers, and insects there. It is one of the good memories of my childhood.

採点基準

- A: 住んでいる町について簡単な概要を述べてから、絵を用いて少し詳しく話している。and, but, because などの簡単な接続表現などを使って、聞き手に配慮しながら、まとまりのある話ができる。自分の生活に直接関連のある話題でよく使われる語彙や文型をかなり正確に使える。言いよどみや言い直しはあるが、わかりやすく話を進めることができる。
- B: 住んでいる町に関する要点を伝えることができる。and, but, because などの簡単な接続表現などを使って、絵をたよりに話している。まだ基本的な誤りが決まったところででてくるが、覚えた語句や言い回しを使い、単純な文構造は正しく用いて、情報を伝えることができる。休止や言い直しが見られる。

C: 住んでいる町について絵をたよりに話しているが、断片的で十分ではない。発音や文法の誤り、日本語の使用などにより、聞き手に負担を与えることがある。表現を探したり、発言を修正するためにつっかえながら話す。

D: 住んでいる町について、ほとんど何も話していない。あるいは話しているものの、文法や語彙選択に関する基本的な誤りが繰り返し起こり、内容が伝わらない。

(A: 当該レベルより上、B: ちょうど当該レベル、C: 当該レベルに少し届かない、

D: 当該レベルに全く届かない)

開発段階

第1期(作成) 第1期(実施) 第1期(分析)

第2期(改訂) 第2期(実施) 第2期(分析)

メモ

内容が十分で約40秒以上話せていればAもしくはB評価とする。なお、解答例を理解できる発音で、目立った休止なく話せれば、A評価である。

開発担当者

高田 智子